

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐阜生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐阜生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐阜生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3	評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習指導）		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒が増え、学力層に幅が見られる。学力不振や欠課時数が多い生徒に対する個に応じた指導や支援がより一層求められる。</li> <li>学校評価アンケートの「学習支援」の項目において、保護者からの評価は高いが、生徒からの評価に低下がみられる。特に、ICTを活用した学習や、課題研究の充実に努める必要がある。</li> </ul>		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卓越性と公正を目指した教育活動を展開し、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす学習機会の充実を図る。</li> </ul>		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を軸に教科・学科と連携することで、担任をはじめとする教職員が、生徒・保護者に対するスムーズな指導や支援に取り組めるようにする。</li> </ul>		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基礎、基本を大切に知識・技能を習得させる授業の実践</li> <li>(2) 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した学習指導と評価の実施</li> <li>(3) ICTの活用の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 評定の場面での定期考査や基礎力診断テストの結果、各教科での課題の実施状況。</li> <li>(2) 生徒の主体的な学びを引き出すことを心がけた場面の設定。</li> <li>(3) Metamoji、Manaba等の学習ツールの活用度。</li> </ul>		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題を解決する思考力、判断力、表現力を育成する授業への改善。</li> <li>主体的な学習の過程や成果の適切な評価ができるよう、ルーブリックの活用を推進する</li> <li>ICT機器を利用した効果的な授業および働き方改革を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一人一人の学力を把握し、必要な指導を行えたか。</li> <li>②観点別評価のための評価規準を適切に設定し実施したか。</li> <li>③ICT機器を活用した授業の実施を推進できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(A) B C D</li> <li>A (B) C D</li> <li>A (B) C D</li> </ul>	
12	<p>○年を追うごとに入学時点での生徒の学力層の幅が広がっているが、生徒の可能性を高めるための個に応じた指導を心がけ、学力不振気味の生徒に対しても粘り強く指導を行い、岐阜農林生としての基礎学力を担保することに努めた。</p> <p>○授業公開週間を通して、生徒の主体的な学びを引き出す授業づくりについて学びあうことができた。</p> <p>▲観点別評価のための評価規準の設定に苦慮する。知識・技能に基づく思考・判断・表現の場面をより設け、さらに指導と評価の一体化に取り組んでいく。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>		
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観点別評価の充実による「評価・評定」の妥当性を高めるため、さらに教員の意識を変えていく。</li> <li>公開授業による「教員の学びあい」の機会を積極的に設け、授業と評価の改善にさらに取り組む。</li> <li>課題研究の目的の再確認と、適切に評価規準を運用した指導に向けての研修機会を設ける。</li> </ul>			

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐農生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3	評価する領域・分野	◇進路支援部		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「進路情報の提供」「希望に沿った進路支援」について、1年生の生徒、保護者の評価が低く、また「わからない」という回答が2、3年生に比べ高い割合であった。1年次の進路行事や情報提供の時期と内容を再考する必要がある。		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・キャリア形成支援の視点に立ち、生徒の自己実現、進路実現を支援する。 ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた効果的な進路支援体制を充実する。 ・組織的に進路支援にあたることができる仕組みや体制を構築する。 ・進路支援、読書&学習情報センターとしての図書館機能の充実を図る。		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路支援部内の業務・分担を明確化する。 ・学年会や他分掌との連携を強化する。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 学年会と連携したLHRやガイダンスの実施 (2) 学科、進学クラブと連携した進学支援	(1) 学年進行による進路意識の醸成度 (2) 希望する進路先への決定割合 (3) 生徒・保護者からの評価の状況		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	・3年学年会、進路支援部、進学クラブ、学科が連携し、生徒一人一人の進路実現を目指した。 ・進路ガイダンス、マナー講座、実力診断テスト活用講座、志望理由書作成講座、進路に関する学年集会等を実施した。 ・各学科の学習内容を踏まえた志望校・志望企業決定や補習、小論文・面接指導を実施した。	①生徒の多様な進路希望に対応する支援により成果を収めたか。 ②段階に応じた情報提供により生徒が進路意識を高められたか。 ③各学科が強みを生かし、主体的に進路支援を行ったか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
12	成果 課題	○3年生は高校生活で身につけた知識・技能、自身の進路希望を踏まえ、高い目標に向けてよく努力した。特に、公務員試験で合格者を多数輩出することができた。 ・○国語科と連携して小論文指導を実施することができた。 ▲進学者が増えたものの、安易に指定校を希望する傾向が見られた。 ▲国公立大学の魅力を伝えて、積極的にチャレンジさせたい。		総合評価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案 ・進学希望者が8割近くになり、推薦書や志望理由書等の書類作成、小論文、面接等の指導体制を組織的に行う必要がある。 ・年々就職希望者が減少するため、企業の魅力を伝えるとともに学科を越えて情報共有していく。 ・1年生の入学時の進路意識を更に高める働きかけを工夫するとともに、将来の岐阜県の農業を支える人材育成につなげるため、農学系の進学者を増やしていく。			

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐農生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3	評価する領域・分野	◇生徒支援部・教育相談		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・いじめや差別に対する対応について評価が下降している。昨年度以上にいじめ対策組織が有効に活用され、さらにきめ細かな適切な対応を期待しているものと解釈したい。		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣（岐農三訓）の指導徹底</li> <li>・生徒の安全と命を守る教育の推進</li> <li>・教育相談の充実</li> <li>・人格形成の促進</li> </ul>		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒支援委員会、生徒支援部会、いじめ対策組織、いじめ防止等対策検討会議、特別支援委員会、人権同和委員会を通して、教員間の共通理解を図る。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 遅刻指導、身だしなみ指導、啓発活動</li> <li>(2) 登校時等の交通安全指導、人権教育指導</li> <li>(3) 心のアンケート、迷惑調査等結果の活用</li> <li>(4) 教員の資質向上、情報ネットワーク構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 過去のデータとの比較、外部からの評価</li> <li>(2) 教員の客観的な判断</li> <li>(3) 全ての訴えに対する迅速な対応</li> <li>(4) 情報・意見交換の場の拡大</li> </ul>		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 遅刻指導、身だしなみ指導、交通啓発安全指導は、教員、生徒が協働して効率よく行えた。</li> <li>(2) 心のアンケート、迷惑調査は、生徒の実情を的確に把握でき、有益に活用できた。</li> <li>(3) 教員間の意思疎通が改善された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①マナー違反、遅刻者数が減っているか。</li> <li>②生徒の安全は確保されているか。</li> <li>③対象生徒への対応は適切か。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>	
12	<p>○いじめ事案の対応が迅速かつ緻密になった。各教員の意識の向上が図られ、対策組織がしっかり機能した。</p> <p>○コロナ禍で開催できなかった行事が復活し、生徒の活発な活動が見られた。</p> <p>・○校則の見直しに関して、生徒が積極的に関与できる道筋が描けた。</p> <p>▲全体的に大きな生活の乱れはないが、規範意識が低く社会性がやや育っていない。また、学校への帰属意識もあまり高くない。</p> <p>▲他人の気持ちを的確に斟酌せず、対人関係を大きく損なって窮地に陥る生徒が散見された。コミュニケーション能力の欠如から人間関係がうまく構築できない生徒の支援の在り方を考えていきたい。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>		
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の見直しに生徒が関わらせることで、生徒が自ら考え行動できる力を養っていききたい。</li> <li>・人とのつながりについて深く考えさせ、規範意識や社会性の向上、帰属意識の強化に努めるとともに、社会や他人に対する関心や感謝の気持ちをもたせるような取組を考えていく。</li> </ul>			

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐阜生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐阜生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐阜生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3	評価する領域・分野	◇特活支援部		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<b>【昨年度との比較】 ※生徒アンケート</b> ・「生徒会活動が活発であると感じている」が <u>15%増加</u> 。 ・「HR活動は自分にとって有意義である」が <u>12%減少</u> 。 ・「部活動が適切な管理体制で行われている」が <u>15%減少</u> 。 ・「生徒会活動が活発である」2%増加。 ・各質問に対し「わからない」が平均3%から13%へ増加。 ・「学校行事や部活動を生徒は主体的に活動している」と答えた生徒は92%。(R5から実施)		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・豊かな心をもつ自立した人間を育てるため、生徒会活動などの特別活動の活性化と充実を図り、感動と達成感のある教育を推進する。		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・週1回の分掌会議を開き、行事ごとに企画・準備・運営・反省を行うと共に情報の共有と共通理解を図る。 ・生徒会行事については生徒が主体となった充実した行事や活動になるよう、執行部の定例会議や一斉委員会の開催など、生徒が考え判断して取り組める機会を増やす。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 生徒会行事の精選と生徒会活動の充実 (2) 部活動の活性化と充実 (3) 望ましい人間関係形成を目指したHR活動 (4) 地域と連携したボランティア活動	(1) 生徒会執行部会の綿密な打合せとふり返り (2) 大会の入賞・出場実績数や日常の活動状況 (3) 委員会活動やホームルーム活動内容の把握 (4) ボランティアへの参加人数やアンケート結果		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	(1) 生徒会執行部による定例会の開催、早期の行事計画と綿密な準備、円滑な運営 (2) 定期的な伝達表彰と活動実績の集約 (3) 各HR委員を主体としたHR活動の実施 (4) KITAGATA清流フェスや岐農祭への参加	①定例会議を開き、十分な打合せと終了後の検証と反省ができたか ②活動実績と活動状況の分析 ③各委員が主体的に活動できたか ④地域や学校の行事に参加できたか	(A) B C D A (B) C D A B (C) D A (B) C D	
12	成果 課題	○生徒が主体となって行事に参加し、満足感や達成感の残る行事を運営できた。 ○岐農祭や北方町主催の音楽フェスなど対外的な行事にも多数の生徒が参加した。 ▲生徒議会の開催や各一斉委員会の開催を継続し、生徒が学校行事により主体的に関わる機会を増やすことで、生徒会活動の活性化とHR活動の充実を目指す。 ▲安全を第一により充実した行事運営のために学校の実情に合わせた実施時期の調整や内容の精選、規模在り方などの見直しと検討が必要である。		総合評価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案 生徒会活動：定期的に生徒議会や一斉委員会を開き学校行事の活性化や生徒の参加意識向上を目指す。 岐農祭：早期の企画・準備の開始と各団体の企画内容の精選・充実を図る。 体育的行事：スポーツDAYと球技大会の開催時期を入れ替えて安全かつ安定した運営を行う。 芸術鑑賞会：3年に1度の実施に向けた準備と検討を行う。			

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐阜生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐阜生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐阜生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3	評価する領域・分野	◇厚生部														
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・感染症対策を含め、学校の健康・安全に対しては高評価を受けており、対応は適切であると考えられる。但し、インフルエンザ感染者が増えており、感染症対策を引き続きしっかり行う必要がある。														
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇保健衛生 感染症への対策と取組の徹底 ◇防災 命を守る訓練を通じた防災意識の向上 ◇環境美化 掃除用具・洗剤などの計画的な整備・ワックスがけやカーテン整備などの校内環境等、校内美化														
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・保健衛生に関しては、対策や施策を講じ、校内に呼びかけを行う。 ・防災は、「命を守る訓練」の計画・実施をし、防災委員会を通じて、各クラスへの啓蒙活動を行う。 ・環境美化は、担当者を中心に美化委員会による、計画的な清掃環境の整備やワックスがけ、カーテン整備等を行う														
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標														
	(1) 換気、手洗い、うがいの徹底、消毒 (2) 命を守る訓練の実施 (3) 清掃用具、カーテンなどの整備	(1) 教室、廊下とも換気等対策はできている。 (2) 命を守る訓練にて、防災意識向上できた。 (3) 清掃用具、カーテン順次整備														
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価													
	(1) 保健衛生：インフルエンザ感染症対策実施 (2) 命を守る訓練の実施と防災意識の向上 (3) 掃除用具などの適切な配置及びワックスがけやカーテンの整備	①可能な限り取り組むことができたか。 ②訓練は適切に実施できたか。防災意識は向上したか。 ③清掃用具の設置状況・ワックスがけ・カーテン整備の状況	<table border="0"> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		(A)	B	C	D	(A)	B	C	D	(A)	B	C	D
(A)	B	C	D													
(A)	B	C	D													
(A)	B	C	D													
12	成果・課題	<p>○保健：全職員で感染症（新型コロナ→インフルエンザ）対応ができた。</p> <p>○防災：3年ぶりに全校で命を守る訓練を実施することができた。</p> <p>▲防災：天候の都合でグラウンドへ避難訓練が実施できなかった。</p> <p>○環境美化：掃除用具の計画配置・ワックスがけ・カーテンの整備等を精力的に実施できた。</p>		総合評価 (A) B C D												
13	来年度に向けての改善方策案	<p>保健：コロナ禍の影響における人の免疫力低下か、インフルエンザ感染者が増え、感染防止対策を更に徹底し確実に実施する。</p> <p>防災：継続して、防災意識を高める訓練を実施するか検討する。</p> <p>環境整備：掃除用具・カーテンの整備を引き続き実施する。全校の美化意識の向上に努める。</p>														

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐阜生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐阜生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐阜生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3	評価する領域・分野	◇農業全般		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の専門教育に対する期待度は大きい。</li> <li>・地域人材を育成するふるさと教育や課題解決学習への注目が高い。</li> <li>・7学科がそれぞれの専門性を生かした教育を実施している。</li> </ul>		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動・教育環境の充実を図る。</li> <li>・備品管理と安全教育の徹底を図る。</li> </ul>		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議、農場会議、科長会、各学科会議、部門長会議</li> <li>・地域連携や地域社会との協働</li> </ul>		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題発見・解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成</li> <li>(2) 大学や研究機関等との連携及びプロジェクト活動の質的向上</li> <li>(3) 備品管理と安全指導の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事後アンケート</li> <li>(2) 地域の声や生徒・保護者・職員の意見</li> <li>(3) 各種メディアへの報道状況等</li> </ul>		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題研究」を通しての課題発見・課題解決学習</li> <li>・職員一人ひとりの研究とプロジェクト学習のレベルアップ</li> <li>・安全運転に努めることや作業点検カードや運転台帳への記録を適切に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①課題研究の活動状況及び発表会</li> <li>②研究の実施状況</li> <li>③事故やケガなどの発生件数</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>	
12	<p>○地域資源を活用して産業界や大学等との連携を図り、充実した教育活動を行うことができた。</p> <p>○「課題研究」を通して課題発見・課題解決学習の充実を図り、自発的・創造的な学習態度を身につけさせることができた。</p> <p>・ ○ I C T を活用した学びを充実し、生徒の思考力、判断力、表現力を高めることができた。また、新しい学力観による観点別評価を行い、学習評価を充実させることができた。</p> <p>○実習前・中・後の安全指導の周知徹底により、ケガの防止に取り組んだ。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>		
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に応じた作目・畜目の検討、学習内容の精選、D X の有効的な活用を進めるとともに G A P、H A C C P の考えに基づいた取組を推進する。</li> <li>・実験・実習を踏まえて施設・設備の整備を計画的に進めるとともに、備品管理と安全指導を常に意識して取り組む。</li> <li>・生徒が科学性の高い「課題研究」に取り組めるよう職員が自己研鑽に努める。</li> <li>・適正な圃場（飼養）規模と管理の在り方を考えるとともに、協力体制を整えて職員の働き方改革を進めていく。</li> </ul>			

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月22日

### 【意見・要望・評価等】

- ・専門の学科ごとに目標に向けて取り組んでいるだけでなく、学校全体としての共通項目を掲げて同じところを目指している点が評価できる。生徒の可能性を伸ばす指標として、様々な機会を捉えて生徒に評価をフィードバックし、教員と生徒が対話しながら生徒の学びをサポートしてほしい。
- ・卒業後の進路では大学への進学者の割合が年々が増えてきている。個別の指導を行っている成果ではあるが、一方で教員の負担が大きくなっているのではないかと。今後、指導体制の確立を進めていくことが大切である。